

令和2年度 第73回卒業証書授与式 校長式辞
(総合学科 15期生)

雲南の地にも、確かな春の足音が聞こえてきます。蒼雲館の紅梅も、何度か雪をかぶりながらしっかりと力を蓄え、今朝の雨風にも負けず満開に咲き誇っています。

本日ここに、島根県立三刀屋高等学校 第73回卒業証書授与式を迎え、135名に卒業証書をお渡しすることができました。卒業生の皆さん、保護者・ご家族の皆様、誠におめでとうございます。

昨年2月末、全国一斉休校という突然の報道に、「卒業式はできないのか」と衝撃が走りました。しかし、すぐに「どうすれば式ができるか」に向けて皆が動き出しました。形こそ変わったけれど、無事挙行できた喜びと感謝は忘れられません。今年もこのような形となったのは誠に残念ですが、卒業生の皆さん、たとえ見えなくても、あなた方に注がれてきた愛情、今寄せられている温かい祝福に、どうか思いを馳せてください。

昨年の式で、私は一つの言葉をもとにお話ししました。ある生徒が口にした「当たり前は当たり前じゃない。一つ一つがありがたいなんだ」という言葉は私の心に強く残り、一人のアスリートの姿が重くなりました。当時、闘病生活から退院したばかりだった、競泳の池江璃花子選手です。

「ここにいることが奇跡、生きていることが奇跡だという気持ちに変わりました」と述べ、次の目標に向かって踏み出した同世代の彼女にみんなも負けるな、そう呼びかけたい思いでした。

しかし、あれから1年、私は彼女から再び大切なことを学びました。この1月、彼女の成人式を機に放映された番組で見たのは、壁にぶつかり続ける彼女の姿でした。中でも胸が痛んだのは、「どうしても元に戻りたい自分がある。でももう戻ることはできない」という葛藤です。誰よりも速くゴールできるのが当たり前だった自分が今は誰にも勝てない。その現実を突きつけられてもなお、泳ぐことが好きで離れられない。葛藤の末、「これも全部自分の人生なんだと思えるようになりました」と微笑む姿は本当にまぶしいものでした。

いま高校生活を振り返るとき、皆さんにはどんな場面が浮かびますか。勉強、行事、部活動、仲間の顔。でも決して晴れやかな場面ばかりではないと思います。壁にぶつかり立往生したこと、今だっでもがき続けていますという人もあるでしょう。

ある方がこんなことをおっしゃいました。

「壁にぶつかったら、とりあえず壁の前でうろうろしてみることだ。誰かが助けてくれるかもしれないし、そのうち壁が勝手に崩れるかもしれない」*

皆さんにもきっと、そんな「誰か」がいたのではないのでしょうか。そしてこれから進む道も、壁の前では決して一人ではなく、うろうろするあなたと共に行く誰かが必ず見つかると思います。いえ、あなた方が手をさしのべる側にもなるでしょう。

失敗も葛藤も、人との出会いもひっくるめて丸ごとあなたの人生です。やってみたいことや好きな道、あなたが為すべきことに志を抱き、まだまだ開拓途上の己の可能性を追い求めていってください。

私たちはコロナ禍という一つの転機にいます。生活様式や価値観の変化は避けられませんし、戻せないものがあるのは事実でしょう。一方で、この状況下に初めて見えてきたこと、大切な発見もあったはずで

命を守るため奮闘する姿や陰で支える姿、カチコチになりそうな心をほぐし、活力を与えてくれる芸術やスポーツの意味。私たち教職員にとっては、生徒が戻ってきた学校、あの朝の感動もそうです。「これから大変な日々が続くだろう、でも今日から三高みんなで行って行くんだ」。あの思いは忘れたくありません。

卒業生の皆さん。最上級生として、この前例のない日々をよく辛抱し、前を向き、後輩の手本となって歩んでくれました。部活動や生徒会でバトンを受けた下級生が、「先輩たちの分まで」と心一つに邁進している姿を見ると、皆さんが残したものの大きさがわかります。皆さんの爽やかな挨拶と笑顔に私自身どれだけ救われたかわかりません。

保護者の皆様。家ではきっと、学校では見せないお子様の姿があったことでしょう。不安や悔しさに涙が出たときも、じっとその背中を見守ってこられたことと思います。寄宿舎でがんばった人も、家のありがたさをかみしめつつ、たくましく成長したと思います。

3年間、学校と手を取りあい、力を尽くしてくださり、誠にありがとうございました。また、若者に多くの刺激とチャンスを与え導いてくださった地域の皆様に、心から感謝申し上げます。この日々が、いつか皆で語り合える共通の財産となりますように、心から願っています。

まもなく雲南の町はとりどりの花と緑に覆われます。「さくらの花かげ 稲田の前」と歌われる学舎の景色と、この地で結ばれた絆を胸に新しい世界に羽ばたいてください。

三刀屋高校 総合学科15期生。皆さんの前途に幸多かれと祈り、はなむけの言葉といたします。

令和3年3月2日

島根県立三刀屋高等学校
校長 倉崎千草

* 「壁にぶつかったら・・・」 東京大学教授 玄田有史氏（松江市出身）の講演の一節からいただきました